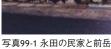
圏は、 めて訪れた屋久島 鹿児島県という近代の行政区分や、 それらは りではとうてい理解できない 驚くほど多彩である。 の印象はまことに鮮烈であった。 その一端を、 島独特の自然環境と生活文化で彩られている 数多の島々からなる「島嶼(とうしょ) 「洋上のアルプス」 そこで遭遇した南の島の洋 という異名をも 地域」 上生活

の島を訪れる機会があり、 本島近くの沖永良部島まで南下 全く異なる別世界が広く、 つ稀有な屋久島でまず触れることができた。 として私が理解していた空間的な広がりとは 深くそこにあることを知った。 その歴史や文化に触れる過程で、 しながら、 近傍のいくつか その後、 沖縄

端に多い雨量 置やつく 側に位置する永田の集落に残る伝統的な家並みと住宅の配 調査の過程で得られた貴重な体験の一つは、 0 0 \inf_{M} 頻繁に訪れる台風、その塩害等々、 (島の沿岸部で約4、 暮らし方の発見であった。 その結果としての高い湿度、 4 0 0 日本国内でも極 外部の我 中央部では そしてシロ 屋久島の西



沖永良部島: 鹿児島県



指すべき方向性を示す大きな指標と確信を発見することができたのは幸い そのプレ・デザインの調査の段階でこの永田の集落に出会い、 実に魅力的で美しい情景やまちなみを伴った居住環境を生み出 住宅団地を設計する機会を鹿児島県から与え 縁あってこの屋久島に平屋50戸からなる 厳しい気候条件を緩和しようとす このように材料や そし 目

写真99-3 石垣と入口周り

であっ

られた。

木造平屋公営

(県営+町営)

我々は2000年を前後して、

なものの持つ意味と力をここにも見ることができた。

そのことを我々は真摯に学ぶべきである、

と思っ

る工夫が、

とができる、

上法の限られた選択肢のなかからでも、

て雨の多さや密集した家屋配置がその主な理由である。

屋根を葺く茅がとれずスギの平木か石置きであったこと、

屋久島の伝統的な民家の殆どが切妻平入りで

入母屋が多い

南方住宅のなかで、

写真99-2 民家に沿って流れる水路

体となって、

非常に美しく安定したまちな

み景観と住空間を生み出

Ļ

今に伝えている

かし、 から見り

この永田では、こうした厳しい れば実に過酷な自然環境に見える。

要求した外構と住まいの配置、

形状、

工夫が 条件が

あるのは、